

資料・学部記事

## 社会共創学部におけるFD活動としての「FDワークショップ」の実施と成果(平成29年度)

### 社会共創学部FDワークショップワーキンググループ<sup>1)</sup>

#### 1. 社会共創学部における「FDワークショップ」の概要

##### 1) FDワークショップの主旨

FD(ファカルティ・ディベロップメント)は、「教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称」<sup>2)</sup>と定義され、「大学設置基準第25条の3が、大学の授業の内容・方法の改善を図るための組織的な研修と研究を実施することについて規定して」おり、その具体例としては、講演会・シンポジウム等、教員相互の授業参観、教育方法改善のためのワークショップまたは授業検討会などが多くみられる<sup>3)</sup>。

これらを背景に、社会共創学部におけるFD活動の一環として、「FDワークショップ」を実施することとし、各教員の教育研究のさらなる質の向上を通じて、地域社会と密着したオリジナリティの高い研究成果の創出と、地域の課題解決のためのステークホルダーと連携した活動の活性化を促し、学部の学術的ならびに社会的な価値をさらに高めることを目的とした。そのために、全教員が参加する<sup>4)</sup>ワークショップ形式での活発な議論を通じて、学部の授業や地域のステークホルダーとの活動状況、新たな研究の進展などについて、教員間で情報共有を図ると同時に、相互の刺激により、新しい教育研究の着想や手法の進化を促すことを目指す。各専門領域を超えた学びの創出を目指す本学部において、教職員の持つ専門分野に対して、学部教育の構築という命題を提示し、各専門領域融合のきっかけをデザインした取り組みである。そして各教員においても、また学部全体にとっても関心が高く意義が大きいトピックに関して、参加教員が議論を楽しみ、その成果を自らの教育研究に活用していくことを重視する。

##### 2) 平成29年度におけるFDワークショップの実施概要

平成29年度は、各教員および学部全体としての教育研究の実践による学術的・社会的価値の向上に関して、2017年12月までに計3回のFDワークショップを実施した<sup>5)</sup>。年度を通してのテーマを「社会共創学部の教育・研究の価値とは何か?」と位置づけ、全てワークショップ形式での開催とした。各回の概要は以下のとおりであり、実施状況については次章で詳述す

る。

(1)第1回:「社会共創学部における研究の価値をいかに高めるか?～研究資金獲得と価値創造のスキームとは～」(6月6日(火)15～17時)

地域社会と密に連携した研究を対象としたファンディング・プログラムを数多く手がけてきたJST社会技術研究開発センターから講師を招聘し、地域のステークホルダーと連携した地域課題の解決を志向する研究に対するファンディングの実績、成果、課題などについて紹介いただくとともに、外部及び学内の競争的資金獲得を通じて学部教員の地域と密着した教育研究の価値を向上させるための道筋を議論する。

(2)第2回:「基礎力育成科目群の価値とは何か」(11月10日(金)15～17時)

社会共創学部の教育研究の根幹を支える学部共通基礎力育成科目群に関して、主担当教員からその内容や手法の工夫と特徴を紹介し、学生・ステークホルダーとともに、当該科目群が教育および地域社会の課題の解決に対して持つ意義と価値について議論する。基礎力育成科目群を出発点として、学部全体の教育活動の価値を、地域志向型人材育成の視点から検討する。

(3)第3回:「実践力育成科目群の価値とは何か」(11月29日(水)15～17時)

社会共創学部の教育研究の最大の特徴である実践力育成科目群に関して、必修科目主担当教員からその内容や手法の工夫と特徴を紹介し、学生・ステークホルダーとともに実践力育成科目群が教育および地域社会の課題の解決に対して持つ意義と価値について議論する。第2回の議論と合わせて、学部全体の教育活動の価値を多面的な視点から検討する。

#### 2. 各回のFDワークショップの実施状況

##### 1) 第1回

第1回目となるワークショップは、「社会共創学部における研究の価値をいかに高めるか?～研究資金獲得と価値創造のスキームとは～」を主テーマに据え、JST社会技術研究開発センターから加藤 豪調査役を講師としてお招きし、教員35名、職員3名の合計38名参加の下開催した(表1)。ワークショップに関わ

る主だったキーワードとして、価値、理念、ディシプリン、研究、競争的資金、トランスディシプリナリー、サーバントリーダーシップ、ステークホルダーを提示した。なお、全体の進行を佐藤 哲教授が担当した。

西村勝志学部長による趣旨説明の後(図1)、ワークショップ前半は加藤調査役から、地域のステークホルダーと連携した地域課題の解決を志向する研究に対するファンディングの実績、成果、課題などについて紹介いただいた(図2)。さらに、地域のステークホルダーと連携した研究、すなわち、「社会技術研究」を進めるにあたっては、自由な発想を持ちつつ、常に社会実装を目指し、いったい誰に向けての研究なのかを常に意識し、研究活動をステークホルダーとともに推進することが重要であると説明があった。

ワークショップ後半は、参加者がグループに分かれ、本学部で実施可能な「社会技術研究」のありようについて、ブレインストーミングを行い、具体策を提案するなど、本学部が、地域と密着し教育研究の価値を向上させるための道筋を議論した(図3)。

## 2) 第2回

第2回目のワークショップは、「基礎力育成科目群の価値とは何か」をテーマとし、社会共創学部の教育研究の根幹を支える基礎力育成科目群が教育および地域社会の課題の解決に対して持つ意義と価値について議論した(表2)。教員32名、職員3名の合計35名が参加した。ワークショップに関わる主だったキーワードとして、社会共創、課題解決、トランスディシプリナリティ、サーバントリーダーシップ、ステークホルダー、価値、理念、ディシプリンを提示した。全体の進行役は、第1回と同じく佐藤教授が担当した。

ワークショップ前半は基礎力育成科目の担当教員2名がそれぞれの担当科目の概要や目的、教育方法の特徴についてプレゼンし、後半は前半のプレゼンを受けた基礎力実践科目群の価値の共有、また授業の質改善に向けた議論をグループ毎に行った(図4)。最後に全グループが発表することで議論内容を全体で共有する時間を持った。現在の課題や授業の質向上のためのアイデアについて様々な視点から意見が挙がり、社会共創学部の教育を学部教員全体で深く考える有意義な

表1 第1回FDワークショップのスケジュール

時間	事項	内容	備考
15:00~15:05	学部長挨拶		西村勝志(社会共創学部長)
15:05~15:15	ガイダンス、話題提供		佐藤 哲(環境デザイン学科教授)
15:15~16:05	地域課題の解決を志向する研究に対するファンディングの実績、成果、課題とは	社会技術研究開発センターの過去のファンディング・プログラムから、課題解決型研究へのファンディングの考え方や、多様な事例紹介を行う。	加藤 豪(独立行政法人科学技術振興機構 社会技術研究開発センター推進グループ調査役)
16:05~16:45	社会共創学部における研究の価値をいかに高めるか～研究資金獲得の視点から～	ワークショップ形式により1グループごとに、講演で紹介されたファンディング・プログラムについて、協働で申請したい提案内容を議論し、概要案をまとめる。	加藤調査役、榊原正幸教授、佐藤教授、山中 亮准教授、淡野寧彦准教授
16:45~17:00	発表、総括	1、2グループによる発表および講師からのコメント。	加藤調査役、佐藤教授

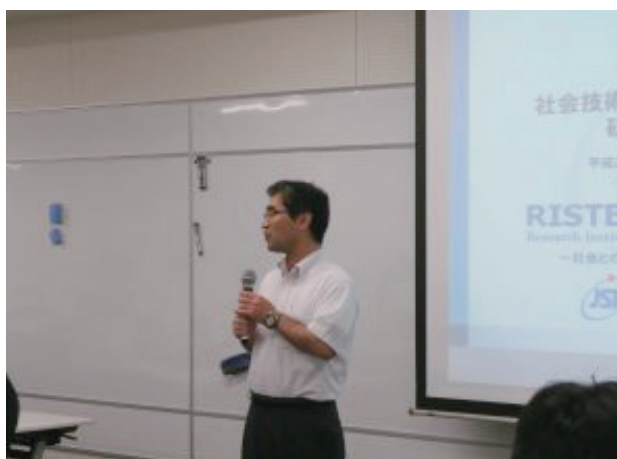


図1 趣旨説明を行う西村勝志学部長



図2 社会技術研究の要諦を説明する加藤豪調査役



図3 学部教員らによる社会技術研究のありように関するグループワークの様子



図4 グループワークによる議論の様子

ワークショップとなった(図5)。

### 3) 第3回

第3回目のワークショップは、「実践力育成科目群の価値とは何か」をテーマとし、すでに実施されているフィールドワーク科目を教員が再確認し、各教員が自身の担当する授業科目とフィールドワーク科目の内容を結びつけることを考察・議論することを目的とした(表3)。教員27名、職員3名の合計30名が参加した。ワークショップに関わる主だったキーワードとして、フィールドワーク、理論、実践、ステークホルダー、協働、トランス、ディシプリナリーを提示した。全体の進行役は、淡野寧彦准教授が担当した。

西村学部長より実践と理論の体系の必要性に関する説明の後(図6)、淡野准教授により、ワークショップの目的及び、本学部フィールドワーク科目の骨子である、「チームラーニング」について参加者間で共有した。具体的には、社会共創学部生全員を対象としたフィールドワークの実施によって、(1)学外での活動を通じた、従来の座学授業のみでは達成し難い知見や課題の体験や発見だけでなく、(2)座学授業で得た知識等の活用や実感、さらにはフィールドワークでの体験を次の座学での学びに適用・応用などの教育効果が期待され、いかに(2)の段階にまで学生の意識や行動を高めるのか、またそのためには各教員からどのような働きかけが必要となるのかを検討する重要性が提示された。

その上で、現状把握の実例として、学部2年生の必修授業である「フィールド実習」を対象に、4つの

表2 第2回FDワークショップのスケジュール

時間	事項	内容	備考
15:00~15:05	学部長挨拶	地域系学部を取り巻く情勢について。	西村勝志(社会共創学部長)
15:05~15:10	基礎力育成科目群について	学部カリキュラムにおける位置づけについて説明する。	徐 祝旗(副学部長)
15:10~15:15	ガイダンス、話題提供	本ワークショップの概要説明及び作業目的を受講者と共有する。	佐藤 哲教授
15:15~15:35	学生の学び1「課題解決思考力を身に付ける社会共創学入門」	地域社会の課題はどのように解決できるのか。地域社会に横たわる多様な課題解決のアプローチを共有し、自らの授業科目での実践方法へのつながりとするを目的とする。	榎原正幸(副学部長)
15:35~15:55	学生の学び2「サーバントリーダーシップを身に付ける経験学習入門」	ステークホルダーと知の創造ができるリーダーシップはどのように涵養できるのか。リーダーシップ入門で学生が学ぶ「経験学習」の理論を共有し、自らの授業科目での実践方法へのつながりとするを目的とする。	山中 亮(地域資源マネジメント学科准教授)
15:55~16:30	ワークショップ「社会共創を学生に伝えるには」	ワークショップ形式により、担当する授業科目における社会共創実践のあり方を議論し、基礎力育成科目群の価値を共有し、質改善に資することを目標とする。	ファシリテーター(榎原、佐藤哲、山中、淡野)
16:30~17:00	発表、質疑応答	全グループによる発表および質疑応答。	佐藤教授
17:00~17:05	総括		若林良和(副学部長)



図5 総括する若林良和副学部長



図6 実践と理論の体系の必要性について説明する西村学部長



図7 理論と実践をいかに統合させるかについての議論

地域の中から西条市及び西予市におけるフィールドワークの実施状況について、山口由等教授、笠松浩樹講師から説明があった。

その後のワークショップでは、フィールドワーク科目の実施内容を把握した上で、フィールドワークと他の理論系授業科目とをいかに関連づけられるのかについて議論した。その中で、それぞれの授業における学生に対する課題提供方法の工夫により「主体性」をいかに伸ばすか、あるいは、「論理的思考力」やフィールドワークを実践する「感性」を伸ばし、「実践力（社会共創力）」を身に付けていくのかについて

示唆を得た(図7)。

#### 4) F Dワークショップのアーカイブ化

社会共創学部のF Dワークショップは「活動の活性化を促し、学部の学術的ならびに社会的な価値をさらに高めること」を目的としている。このため、情報の共有を図るため、すべての教員の参加を原則としている。加えて、F Dワークショップの実施風景は動画として編集され、全ての資料とともにMoodle上で閲覧可能な形で保管される。これらの情報は、学部内に対する情報共有としての価値に加え、今後の社会共創学部におけるF Dのための重要な資源としても活用する予定である。

### 3. おわりに

愛媛大学において42年ぶりに誕生した新学部である社会共創学部には、地域のステークホルダーらからの大きな期待や注目が集まっているが、これらに応えるための教育・研究体制の構築はまだ道半ばである。教員が学生に自身の専門分野に関する知識を教えるという、これまで主流となっていた大学教育のあり方を越えて、教(職)員と学生、また教(職)員同士が相互に連携・協働して、地域や社会の課題抽出や解決に向けた柔軟な思考・実践を進めることが求められている。この実現のためにも、本稿で取り上げたF Dワークショップの果たす役割は大きいものと考えられることから、今後も教育・研究体制の改善に向けた効果的なアクションを進めていきたい。

#### 注

- 1) 本ワーキンググループの構成員は、社会共創学部の榊原正幸教授、佐藤 哲教授、山中 亮准教授、淡野寧彦准教授、砂田寛雅事務課副課長の5名である。
- 2) 中央教育審議会(2005)：「我が国の高等教育の将来像」答申。
- 3) 中央教育審議会大学分科会大学教育部会(2015)：大学運営の一層の改善・充実のための方策について。
- 4) 学部の全教員の参加を原則とするために、F Dワークショップは通常の授業日程が組まれていない日時に開催できるよう、調整した。また、出張等のやむをえない事由によって欠席した教員に対しては、あらかじめ事務課宛に欠席連絡をすることと、当該のF Dワークショップの様子をビデオ撮影した動画を後日視聴することを求めた。
- 5) 平成29年度中には、2018年2月にも第4回となるF Dワークショップを開催する予定であるが、本稿の執筆段階では、詳細な開催内容・時期は未定のため、記述からは割愛する。

社会共創学部におけるFD活動としての「FDワークショップ」の実施と成果(平成29年度)

表3 第3回FDワークショップのスケジュール

時 間	事 項	内 容	備 考
15:00～15:05	学部長挨拶	理論と実践の実質化について	西村勝志(社会共創学部長)
15:05～15:15	ガイダンス、話題提供	本ワークショップの概要説明及び作業目的を受講者と共有する。	淡野寧彦 (地域資源マネジメント学科准教授)
15:15～15:35	フィールド実習の実施状況1 「西条市における実習」	西条市における実習内容を確認し、自らの授業科目での実践方法へのつながりとするを目的とする。	山口由等(産業マネジメント学科教授)
15:35～15:55	フィールド実習の実施状況2 「西予市における実習」	西予市における実習内容を確認し、自らの授業科目での実践方法へのつながりとするを目的とする。	笠松浩樹 (地域資源マネジメント学科講師)
15:55～16:05	グループワーク1	所定のワークシートを用いて、フィールドワーク科目と各教員自身が担当する授業内容との関係性や応用可能性などについて各自検討する。	ファシリテーター (榎原、佐藤哲、淡野)
16:05～16:35	グループワーク2	5～6名で1組(フィールド実習担当教員1～2名と他の教員4～5名)となり、フィールドワーク科目と座学授業との関係性などについて議論する。	ファシリテーター (榎原、佐藤哲、淡野)
16:35～17:00	発表、質疑応答	2～3組のグループより、議論の内容について報告。	淡野准教授
17:00～17:05	総括		若林良和(副学部長)

